



一般財団法人アーネスト育成財団
(Earnest Upbringing Foundation)

技術経営人財の育成と活用

2019年 9月開講

西河技術経営塾・7期生募集

実践経営スクール

主催：一般財団法人アーネスト育成財団

変革をつくるマーケティングを学び、
豊かな社会づくりに取組む経営者を輩出する

技術経営塾での学びと成果

1. 日本型技術経営研究の成果を学ぶ
2. お金は企業の血液であることを学ぶ
3. 売上を10倍にする西河技術経営学を学ぶ
4. 実践的思考、変革的思考を塾生参加型で育成する
5. 誠実な経営人財を育成する
6. 現職の経営者が学び、学んだことをすぐ経営に生かせる

経営者のための経営塾、西河塾長をはじめ講師が経営ノウハウを個別指導する

未来に向かって経営計画を立てて、社員と共に取り組むのが経営です。企業理念で経営目的を明らかにし、理念を実現するためのビジネスモデルを持ち、ビジネスモデル実現のための事業計画を中長期的な視点から作成します。次に事業計画達成のための戦略を社員に明らかにします。戦略は、具現力であるエンジニアリングに裏付けされた戦術で組み立てます。企業力である「ヒト、モノ、金」で裏付けされていなければなりません。

西河技術経営塾では、常に技術と絡んだ経営を塾生に教え、演習では、経営を支えるエンジニアリングに言及することで、経営人財の育成に取り組めます。技術の存在を意識したうえで「技術経営」を学びます。自社のエンジニアリング・ブランド構築に取り組めます。あらゆる経営計画にお金を絡ませて、具現化の確認をします。お金の管理をすることで、企業の健康状態を把握できることを学びます。

● 塾長西河洋一(理事長)の挨拶

塾長として、塾生との意見交換に取り組む

財団を作ろうと思ったのは「起業が少ない」、そのためには「経営ができる人財を育成しよう」「経営ができる人財を育成する機関が日本には見当たらない」という問題に気付いたからです。当財団は、日本の持続的な成長と活性化を目指し、起業家や事業家の支援に取り組んでいます。具体的には、事業をするための技術経営人財を育成するためのセミナー、研修、研究委員会などを実施してきました。

第6期生を募集する『西河技術経営塾・実践経営スクール』は、中小企業の経営者を主たる対象としたスクールで、日本の産業の基盤を支える「税金を払える会社にすることができる」経営者の育成に取り組めます。塾長として、塾生との意見交換に出来るだけ取り組みたいと考えています。



西河洋一塾長・理事長

●『西河技術経営塾・実践経営スクール』の概要

生きた経営学を講師と学ぶことで、明日に使える実践力を鍛える

モノづくりやコトづくりを支えるエンジニアリングの存在を学ぶ 実践経営スクールは、経営者向けに基本的な「技術経営」の知識の修得と創生力の鍛錬を行う「技術経営」に関するビジネススクールです。経営者の中には、社長に就任したものの色々な事情で、時間を掛けて経営学を学ぶことが出来なかったり、ビジネススクールに行くにしても、適当な実践型の技術経営人財育成の場が無いなどと困っている方がいます。技術経営者の育成といっても、技術者だけを対象にしたビジネススクールではありません、技術や技術者をいかに使うか、いかにマネジメントするか、顧客ニーズと事業をいかに結び付けるかの方法や戦略を学びます。

自らの経営を形式知化し、技術経営の見える化に取り組む モノづくりの現場で豊富な経営経験や技術経営研究に従事してきた講師陣とともに、現在抱えているビジネス課題を塾生とともに解決しながら学習する、実践トレーニングを盛り込んだビジネススクールです。本塾の開講を決断したのは、現役の経営者から「仕事をしながら経営を学びたい」という要望があった。日本の経営環境で、社会のビジネスリーダーとしての経営実践力を学んでいきます。経営学は複合学です。それを浅く広く、機能的に連携させながら短期間に総合力をたかめる学習の場と、創造力鍛錬の場を提供いたします。

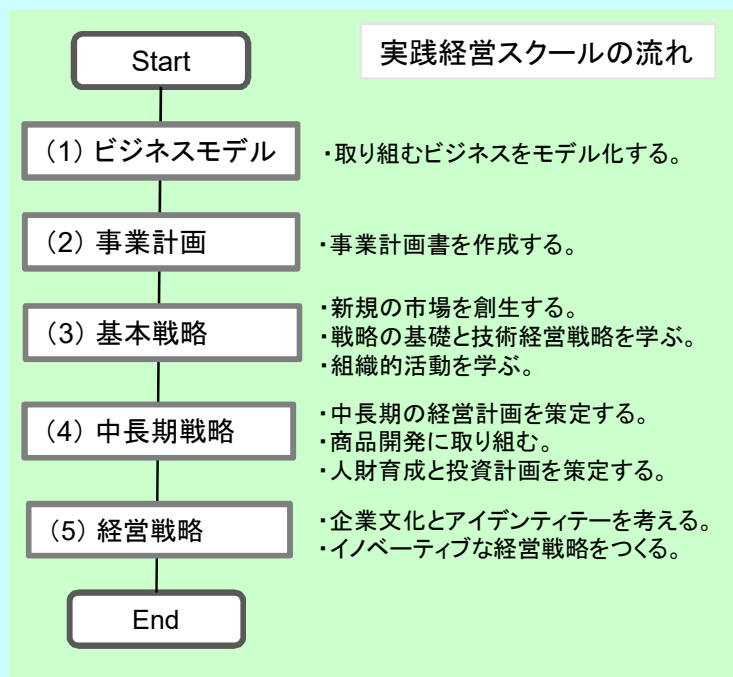
受講風景と懇親会



第5期生の受講風景



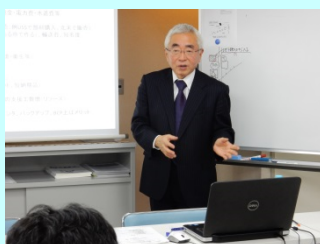
5期生の修了式



小平和一郎講師



浅野昌宏講師



杉本晴重講師



前田光幸講師



西河洋一塾長による特別講演



ネットで講義に参加



四万温泉特別合宿で課題を発表する5期生

● 講義内容 講義90分、演習90分で、実践的参加型学習に取り組む

本コースは、前期と後期に分かれています。毎週水曜日に開講します。ただし、毎月4回の開催を原則とし、月5回の月は、1回を休講とします。1日の構成は前半の18時～19時30分が学習の時間、後半の19時40分～21時10分が演習の時間とします。演習では、課題研究の発表、ケース研究、意見交換などを行い創成力を鍛錬します。前期は9月から16回開講し、後期は2月から16回開講する予定です。

No.	開講日 (予定)	学習講座名称	演習課題(予定) 進捗に応じて課題の変更があります
1		開講式:開講にあたって(西河)	自己紹介と受講目標、意見交換後、再度の目標設定と報告。
		ビジネスモデル	
2		まず自社のビジネスモデルを考える(小平)	演習:自社のビジネスモデルを報告する。
		事業計画	
3		事業計画を作成する(小平)	演習:自社のビジネスモデルを分析する。
4		会社の状態を会計数値で管理する(小平)	演習:事業計画を記述する。
		基本戦略	
5		新規の市場を創生する(山中)	演習:自社の事業や経営を会計数値で管理(原価計算、損益)
6		戦略の基礎と技術経営戦略を学ぶ(小平)	演習:西河塾長の講義
7		企業組織と組織的活動を学ぶ(前田)	演習:自社のSWOT分析(自社(もしくは競合社)の財務諸表を報告)
8		エンジニアリング・ブランドと技術経営を学ぶ(小平)	演習:自社の事業計画(事業計画書、中期事業計画(3か年))。
9		顧客とのコミュニケーションを考える(小平)	演習:自社の戦略、戦術と現状の課題を報告する
10		ビジネスを会計数値で管理する(前田)	演習:自社をPRする広告を作ろう(変更)
11		モノづくりを理解し、生産活動を学ぶ(杉本)	演習:ブランドコンセプトとブランド構築戦略を報告する
12		モノづくりを会計数値で管理する(杉本)	演習:貴社の無駄取りを検討する
		中長期計画	
13		中長期計画を作成する(小平)	演習:原価管理、経費管理の現状と課題と対策
14		サービスの8Pとホスピタリティ・センスウェア(山中)	演習:生産技術、エンジニアリング、テクノロジー、科学・・・開発戦略
15		商品開発の進め方(杉本)	演習:自社の4P+2Cまたは8Pの報告とマーケティング戦略
		経営戦略	
16		企業文化とアイデンティティーを考える(前田)	演習:事業別(製品別)収支計算書(原価計算書)を作成する
17		人財育成と設備投資(小平)	演習:技術開発、商品開発、保守サービスなどの開発マネジメント
18		ICTを活用した新規ビジネス(山中)	演習:事業拡大に伴う銀行向け中長期経営計画書2(事業収支)の作成
19		海外市場と貿易取引(浅野)	演習:ブランド構築と広告のデザイン
20		海外におけるモノづくり(杉本)	演習:企業アイデンティティーとブランドの提案
21		サービス・イノベーションで新規ビジネス(山中)	演習:貴社のICT戦略(即時実行、短期計画、中長期計画)
22		イノベーションを作る経営戦略(小平)	演習:ロボットの研究(現状分析、自社の利用、未来志向)
		個別研究	
23		プロジェクトマネジメント(浅野)	演習:マーケット観察(競争の場面を見て、調査し、対策を立案する)
24		M&A、知的財産(浅野)	演習:サービス・イノベーション戦略(中期)を企画する
25		課題研究、報告書と論文の書き方(小平)	演習:世界をリードした日本のイノベーション事例を6つ挙げ特徴と理由を報告
26		マネジメントとリーダーシップ(小平)	演習:研究報告書のテーマの設定(研究ノート8ページ以内)と構成
27		会社を取り巻く法令と規則(契約)(小平)	演習:市場の看板や広告を研究し、自社の看板を企画する
28		企業のコミュニケーション(CSRとマスコミ対策)(前田)	演習:人財育成上の問題と原因
29		リスクマネジメントと失敗学(浅野)	演習:研究報告書のテーマと概要レビュー(1)
30		演習:研究報告書のテーマと概要レビュー(2)	演習:研究報告書のテーマと概要レビュー(3)
31		課題発表会(1):審査	演習:課題発表会(2):審査
32		最終発表	修了式

● 講師の略歴紹介

西河 洋一(にしかわ よういち)

- ・学歴 2009年芝浦工業大学大学院工学マネジメント研究科(MOT)修了
- ・職歴 1982年に和田建設(株)、99年伏見建設(株) (アーネストワンの前身)に入社、2000年(株)アーネストワン代表取締役社長、13同社取締役会長(現在)、飯田グループホールディングス(株)代表取締役社長(現在)、12年当財団理事長(現在)。
- ・学会など 日本開発工学会会員、一般社団法人MOT振興協会理事。

小平和一郎(こだいら かずいちろう)

- ・学歴 1970年芝浦工業大学電子工学科卒、2005年芝浦工業大学大学院工学マネジメント研究科(MOT)修了、2007年芝浦工業大学大学院工学研究科博士(後期)修了(学術博士)
- ・職歴 1970年大倉電気(株)入社、技術部長、経営企画室長、営業部長、情報通信事業部長(2002年まで)、2004年(株)イー・ブランド21設立し代表取締役(現在)、14年～15年東京経済大学技術経営実践スクール講師、12年当財団専務理事(現在)。
- ・学会など 日本開発工学会理事・運営委員長、学会誌「開発工学」編集委員長、研究イノベーション学会など。

山中 隆敏(やまなか たかし)

- ・学歴 2008年芝浦工業大学専門職大学院工学マネジメント研究科修了、2011年芝浦工業大学大学院後期博士課程修了(工学博士)
- ・職歴 1987年富士通株式会社入社、2010年(株)富士通研究所、2017年株式会社メディカルパーフェクト代表取締役社長(現在)。
- ・学会など 日本開発工学会会員、一般社団法人ペンタグラム・ジャパン コンサルティンググループ代表理事。

浅野 昌宏(あさの まさひろ)

- ・学歴 1969年芝浦工業大学電子工学科卒
- ・職歴 69年丸紅飯田(株)(現丸紅(株))入社、76年リビア通信工事事務所長、82年アブダビ通信工事事務所長、89年通信機械部通信機械第二課長、93年通信機械部部長代理、94年ナイロビ支店長、98年(株)グローバルアクセス代表取締役社長、99年丸紅ネットワークシステムズ(株)代表取締役社長、2002年(株)JCN南横浜代表取締役社長、06年(株)JCNコア代表取締役社長、07年(株)JCNコア葛飾代表取締役社長、09年(株)JCN関東常勤監査役、14年当財団理事(現在)など。
- ・学会など 一般社団法人アフリカ協会副理事長(現在)、日本開発工学会会員。

杉本 晴重(すぎもと はるしげ)

- ・学歴 1970年早稲田大学理工学部電気通信学科卒
- ・職歴 70年沖電気(株)入社、90年電子通信事業部複合通信システム事業部技術第一部長、98年OKI Network Technology President、2000年沖電気執行役員、02年研究開発本部長、04年常務取締役・CTO、06年中国ビジネス本部長、08年(株)沖データ代表取締役社長・CEO、12年沖データ、沖電気取締役、14年当財団理事(現在)など。
- ・学会など 日本開発工学会会員

前田 光幸(まえだ みつゆき)

- ・学歴 1970年一橋大学経済学部卒
- ・職歴 1970年東燃(現、JXTGエネルギー)入社、80年海外現法VP(ニューヨーク、ロンドン)、91年経営企画部長、97年電力卸事業プロジェクト統括部長、2000年エクソン・モービル日本グループの広報渉外統括部長、02年LNG火力プロジェクト統括部長。03年～12年東京工業大学・大学院・イノベーション・マネジメント研究科・研究員・非常勤講師・博士課程単位取得、05年中国・西南交通大学大学院、蘭州交通大学・大学院、非常勤講師、06～14年高知工科大学・マネジメント学部・非常勤講師13～16年早稲田大学大学院非常勤講師、14年当財団評議員(現在)。
- ・学会など 日本開発工学会理事・副運営委員長。

● 塾生募集(7期生:2019年9月～2020年5月)要領

(1)募集期間 2019年4月～2019年7月

(2)場 所 一般財団法人アーネスト育成財団事務所内(渋谷区代々木1-57-2 ドルミ代々木704号)

(3)受講料(税込):受講生が所属する企業の売上規模に応じて変わります。

売上1億円未満:18万円、10億円未満:25万円、100億円未満:44万円、100億円以上:60万円

(4)募集定員 7名

(5)応募資格 年齢 28～50歳程度、仕事に従事

(6)申込方法 氏名、年齢、性別、所属、職制、住所、電話番号など、Eメールを明記して、Eメール(office@eufd.org)にて、願書を手入してください。書類(願書)選考後、面接試験を含む選抜試験を行います。応募は随時受け付けますが、定員になり次第、締め切ります。お問い合わせは、Eメールにて担当の小平和一郎までお問い合わせください。